

地下水汚染機構解明基礎調査（3次）の結果概要

1 現地調査時期

- (1) 井戸諸元調査 令和7年11月～12月
- (2) 水質調査 令和7年12月～令和8年1月

2 地下水汚染機構解明基礎調査の内容

(1) 調査対象井戸

令和6年度に実施した地下水汚染機構解明基礎調査委託（1次，2次）の対象井戸のうち，単一の帯水層（※1）から揚水していると推定された井戸18本，及び，令和6年度に実施した地下水調査の対象井戸からヒアリング情報や平面的分布を参考に新規に選定した井戸10本の，計28本の井戸を対象としました。

※1 帯水層とは，地下水で満たされた，砂層等の透水性が比較的良い地層であり，一般には地下水取水の対象となり得る地層のことです。

(2) 井戸の帯水層区分

令和6年度に実施した地下水汚染機構解明基礎調査（1次，2次）において，調査対象地域における地層の分布状況を把握できる資料を収集し，帯水層区分を行いました。

令和7年度に実施した同調査（3次）では，令和6年度調査で推定した帯水層区分を採用し，新規に調査する井戸についても同様に帯水層区分を行いました。

(3) 井戸諸元調査

調査対象井戸のうち，新規に選定した10本の井戸において，井戸の深さや地下水が汲み上げられる位置を測定し，(2)の地層情報から，それぞれの井戸が地下水を汲み上げている帯水層を推定しました。

又，令和6年度調査から引き続き調査対象とした井戸18本と合わせて，水面の高さ等を測定しました。

これらの調査結果から，取水している帯水層ごとに，地下水の流れる向きを推定しました。

(4) 調査結果

ア 調査の結果，調査対象とした井戸の取水層は，第1帯水

層～第3帯水層(※2)までの、3つ(※3)の帯水層と推定されました。

推定された各帯水層のおよその深度は、次のとおりです。

- ・第1帯水層 標高約5mより上部
- ・第2帯水層 標高約-5m～約-2m
- ・第3帯水層 標高約-28m～約-12m

※2 地表に近い側から、第1帯水層、第2帯水層……の順になります。

※3 帯水層区分は、収集した既存資料から推定したものであり、今後の調査により実際の地層の状態を把握できた場合には、区分が変わる可能性があります。

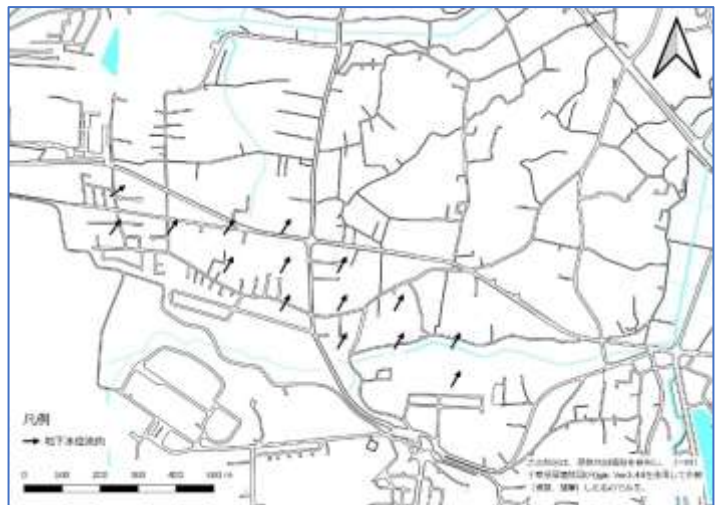
イ 3つの帯水層のいずれについても、その地下水を汲み上げている井戸の中に、PFOS及びPFOAの濃度が指針値を超過した井戸が確認されました。

ウ 調査対象地域での地下水流向推定

(ア) 第1帯水層

南西から北東に向かう流れが推定されました。

PFOS及びPFOAの合計値については、地下水流向の上流側である南西側で数値が高く、下流側で数値が低くなる傾向を示していました。



【第1帯水層流向推定】

(イ) 第2帯水層

西から東へ向かう流れが推定されました。

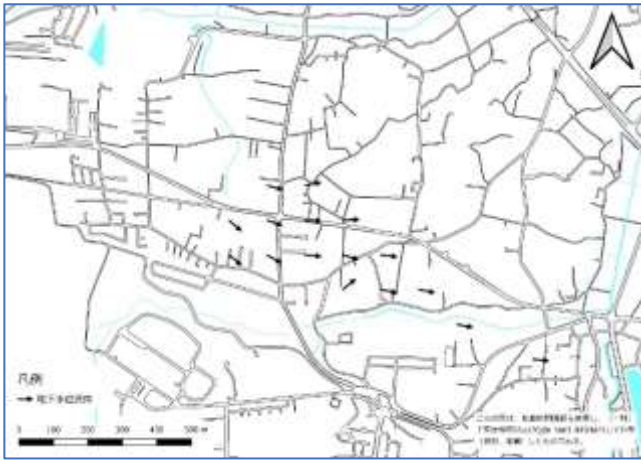
PFOS及びPFOAの濃度は、南側で高く、北側で低くなる傾向を示していました。

(ウ) 第3帯水層

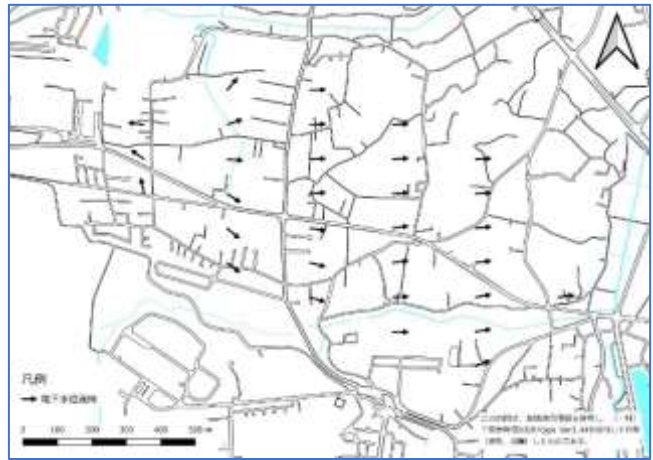
調査範囲西側を起点として、西方向と東方向への流れ

が推定されました。

PFOS 及び PFOA の合計値については、調査範囲の西側で高く、東側で低くなる傾向を示していました。



【第2帯水層流向推定】



【第3帯水層流向推定】

※地下水流向推定に関する注意事項

- 各帯水層の流向図は、令和7年11月～12月に実施した現地調査の調査結果に基づく推定結果です。
(地下水流向は季節で変動する可能性があります。)
- 又、この流向推定は、既存資料から推定した帯水層区分に基づいており、今後の調査により、藤ヶ谷地域における実際の地層構造の情報が得られた場合には、流向推定の内容が変わる可能性があります。

3 地下水の濃度変動調査

帯水層ごとの地下水の水質の変動状況を調査するため、地下水汚染機構解明基礎調査委託(3次)に併せて、地下水の水質調査を実施しました。

(1) 調査対象井戸

地下水汚染機構解明基礎調査委託(3次)の対象井戸のうち、地下水採取ができた27本の井戸を対象としました。

(2) 調査結果

調査の結果、帯水層別での特徴的な濃度の増減等は認められませんでした。

濃度の傾向については、2(4)ウ(ア)～(ウ)のとおりです。